

第7回 東京グローバル・ダイアログ

登壇予定者(7月7日現在)

(★モデレーター ◎パネリスト。モデレーター以外(パネリスト)はアルファベット順)

(以下のプログラムおよび登壇者は7月7日時点のものであり、変更される可能性があります。)

7月15日(水)

◆ セッション1 「不確実性時代の戦略的選択」

★ 佐々江 賢一郎 日本国際問題研究所理事長、元駐米大使

1974年東京大学法学部卒業。同年外務省入省。北米第二課長、北東アジア課長、内閣総理大臣秘書官、総合外交政策局審議官、経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官、外務事務次官、駐米大使などを歴任。2018年6月より現職。多くの対外経済交渉を手掛け、また「六者協議」の日本代表、G8サミットの政務局長を務めるなど、外交官として豊富で幅広い経験を持つ。内閣官房「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」および「サイバー安全保障分野での対応能力の向上に向けた有識者会議」の座長を務めた。現在、内閣官房「総合的な国力から安全保障を考える有識者会議」の座長を務める。

◎ アネグレート・クランプ＝カレンバウアー コンラート・アデナウアー財団理事

長、元独国防相

1962年、ドイツ・フェルクリンゲン生まれ。2025年12月、コンラート・アデナウアー財団理事長に選出。2018年12月から2021年1月までドイツ・キリスト教民主同盟(CDU)党首を務め、2019年7月から2021年12月まではドイツ連邦国防大臣を務めた。これに先立ち、2000年から2011年までザールラント州政府において複数の閣僚職を歴任し、その後2011年から2018年までザールラント州首相を務めた。1998年にはドイツ連邦議会議員を務め、1999年から2018年まではザールラント州議会議員を務めた。また、2011年から2018年までCDUザールラント州連盟議長、2018年2月から12月までCDU幹事長を歴任した。

◎ 林 聖男(イム・ソンナム) BAE・KIM・LEE 法務法人グローバルアドバイザー、元
韓国外交部第一次官

韓国外交部において約 40 年にわたり、第一次官、朝鮮半島平和・安全保障問題特別代表、駐英国大使、駐 ASEAN 大使などの要職を歴任した。海外勤務では、ワシントン D.C. に 2 度赴任したほか、北京、国連（ニューヨーク）、台北にも赴任した。外交部本部では、北朝鮮核問題局長、韓米安全保障協力上級調整官などを務めた。2021 年 12 月に退官後は、韓国有数の法律事務所である法務法人「Bae, Kim & Lee」のグローバルアドバイザーを務めている。ソウル大学校で国際関係学の学士号および修士号を取得後、ハーバード大学大学院（GSAS）政府学科において AM（修士号）を取得。東京大学客員研究員および世宗研究所客員研究員も歴任した

◎ **ラジャ・モハン** モトワニ・ジャデジャ米国研究所（ジンダル・グローバル大学） 特別教授、『フォーリン・ポリシー』誌 地政学コラムニスト

インド・デリーのジンダル・グローバル大学モトワニ・ジャデジャ米国研究所特別教授。ニューヨークのアジア・ソサエティ政策研究所（Asia Society Policy Institute）非常勤フェローも務める。これまでに、シンガポール国立大学南アジア研究所所長、インド・ニューデリーのジャワハルラール・ネルー大学南アジア研究教授、シンガポールの S.ラジャラトナム国際問題研究院（RSIS）教授を歴任した。また、カーネギー・インディア（ニューデリー）の初代所長を務めたほか、2009 年から 2010 年まで米国議会図書館においてヘンリー・アルフレッド・キッシンジャー国際問題チェアを務めた。さらに、インド国家安全保障諮問委員会委員も歴任している。専門分野は、アジアの地政学、インドの外交・安全保障政策、新興技術をめぐるグローバル・ガバナンス。Foreign Policy および The Indian Express に定期的に寄稿している。最新刊は『India and the Rebalancing of Asia』（2025 年）。

◎ **岡野 正敬** 前国家安全保障局長

2025 年 1 月から 10 月まで 国家安全保障局長兼内閣特別顧問として勤務。2023 年 8 月から外務事務次官として勤務。

2022 年 9 月から内閣官房副長官補兼国家安全保障局次長として勤務。国家安全保障戦略策定、サイバーセキュリティ法整備に関与。

外務省では、総合外交政策局長、国際法局長を歴任。2012 年から 15 年まで外務省総合外交政策局総務課長を務め、外交戦略に係る計画及び調整を担当。総理大臣の約 70 か国（のべ）の外国訪問に同行。欧州局ロシア課長、国際法局国際法課長も務める。

外国勤務は、ワシントン、北京、パリ。

東京大学法学部卒業、フランス国立行政学院（École nationale d'Administration）外国人課程修了。

◎ **アンドリュー・シーラー** 次期駐日豪州大使、前豪州国家情報長官

外交・安全保障分野の専門家。約 35 年にわたり、国家情報長官（Director-General of National Intelligence）、内閣官房長官（Cabinet Secretary）、豪州首相 2 名の上級顧問など、オーストラリア政府の要職を歴任した。キャリアを通じて日本との協力・交流にも深く携わってきた。

このほか、在米オーストラリア大使館、首相・内閣府、外務貿易省、国防大臣室、ビクトリア州首相・内閣府などで要職を務めた。

また、米国の戦略国際問題研究所（CSIS）ではアジア太平洋安全保障担当上級顧問、ローウィー国際政策研究所では研究部長（Director of Studies）を務めた。同氏の分析は、主要な国際メディアや学術誌、書籍などに広く掲載されている。米国国防総省より「Distinguished Public Service Medal」、米国国家情報機関より「National Intelligence Distinguished Public Service Medal」を受章。

ケンブリッジ大学で国際関係論の MPhil（修士）を取得。メルボルン大学で文学士（優等）および法学士（優等）を取得。

◎ 沈 丁立（シェン・ディンリー） 国観智库米国研究所長、復旦大学教授、国際問題研究院前副院長

グランドビュー・インスティテューション（Grandview Institution）学術委員会委員および米国研究センター長。復旦大学国際問題研究院名誉教授。復旦大学国際問題研究院執行院長および米国研究センター長を歴任した。現在は、ワシントン大学セントルイス校名誉客員教授も務める。これまで、中国、米国および「Semester at Sea」プログラムにおいて、国際安全保障、米中関係、中国の外交・安全保障政策などを講義してきた。専門分野は、米中安全保障関係、地域安全保障と国際戦略、軍備管理・核不拡散、中国および米国の外交・安全保障政策など。1989 年に復旦大学で物理学博士号を取得。同年から 1991 年まで、プリンストン大学において軍備管理分野の博士研究員（ポストドクトラル・フェロー）を務めた。1996 年にはアイゼンハワー・フェローに選出され、2002 年には当時の国際連合事務総長 Kofi Annan の第 2 期戦略計画策定に助言を行った。

◎ ロバート・ウィルキー アメリカファースト政策研究所(AFPI)米安全保障議長、元米退役軍人省長官、元米国防次官

米国ノースカロライナ州フェイエットビル出身。米国第一政策研究所（America First Policy Institute: AFPI）において、アメリカ安全保障担当チェアを務める。ドナルド・J・トランプ大統領により第 10 代退役軍人長官に指名され、これに先立ち退役軍人長官代行を務めた後、連邦上院の承認を経て退役軍人長官に就任した。それ以前は国防次官（人事・即応担当）として、即応態勢、州兵・予備役、軍医・医療、訓練、人事管理、機会均等、福利厚生および軍人家族の生活の質に関する事項について、国防長官および国防副長官に助言を行った。また、国防次官補および大統領国家安全保障問題特別補佐官も歴

任している。現在は米国空軍予備役大佐。ウェイクフォレスト大学卒業（優等）、ロヨラ大学ニューオーリンズ校法科大学院にて法務博士（J.D.）を取得。さらに、ジョージタウン大学で国際・比較法学修士（LL.M.）、米陸軍大学校で戦略学修士号を取得している。また、海軍指揮幕僚大学校、空軍指揮幕僚大学校、米陸軍大学校および統合軍幕僚大学校を修了し、多数の論文を発表している。このほか、Newsmax Television の上級国家安全保障アナリストも務める。国防総省における民間人最高位の栄誉である「国防優秀公共奉仕勲章（Defense Distinguished Public Service Medal）」をはじめ、多数の個人・部隊表彰を受けている。

◆ セッション2 「戦略流動化時代における戦域横断協力の強化」

★ 彦谷貴子 東京大学グローバル教育センター教授

アジア・ソサエティ政策研究所 シニアフェロー

専門は、文民統制を中心とした政軍関係、日本の国内政治、日本の外交政策、比較政軍関係など。2016 年から 2021 年にかけて、コロンビア大学ジェラルド・L・カーティス記念現代日本政治・外交准教授を務めた。以前は、防衛大学校公共政策学科・総合安全保障研究科にて准教授として勤務。慶應義塾大学より学士号、慶應義塾大学およびスタンフォード大学より修士号、コロンビア大学より政治学博士号を取得。

◎ ジャスティン・バッシ 豪戦略政策研究所(ASPI)所長

オーストラリア戦略政策研究所（Australian Strategic Policy Institute: ASPI）事務局長。

2019 年 6 月から 2022 年 3 月まで、外務・女性担当大臣マリス・ペイン上院議員の首席補佐官（Chief of Staff）を務めた。それ以前は国家情報局（Office of National Intelligence）においてサイバー・インテリジェンス・ミッション・マネージャーを務め、国家情報コミュニティ全体におけるサイバーセキュリティおよび重要技術分野の連携を統括した。2015 年 9 月から 2018 年 8 月まで、マルコム・ターンブル首相の国家安全保障担当補佐官（National Security Adviser）を務め、国家安全保障、防衛および外交に関する政策立案・助言を統括した。対テロ対策、外国による干渉対策、サイバー空間、情報活動、国境警備など、安全保障関連の法制、政策および運用全般を担当した。また、ジョージ・ブランディス司法長官の国家安全保障担当補佐官として、対テロ対策や通信セキュリティを含む国家安全保障関連の法制・政策に携わった。それ以前には、国家評価局（Office of National Assessments）を含むオーストラリア政府機関で 10 年以上勤務し、首相・内閣府ではサイバーセキュリティ政策を担当した。

◎ チャン・ヘン・チー シンガポール外務省無任所大使、元駐米大使

シンガポール外務省巡回大使（Ambassador-at-Large）。シンガポール工科大学（Singapore University of Technology and Design : SUTD）リー・クアンユー革新都市センター名誉教授。シンガポール大統領少数民族権利評議会委員。

東南アジア研究を代表する研究機関である ISEAS ユソフ・イシャク研究所理事長、アジア・ソサエティ（Asia Society）グローバル共同議長を務める。ストックホルム国際平和研究所（SIPRI）理事も歴任した。

これまでに、駐米シンガポール大使、国際連合シンガポール政府常駐代表を務めるとともに、駐カナダ高等弁務官および駐メキシコ大使を兼任した。

公共行政勲章（金章）、功労勲章（Meritorious Service Medal）、殊勲勲章（Distinguished Service Order）など数多くの勲章を受章。また、英国、オーストラリアおよびシンガポールの大学から名誉学位を授与されている。

◎ 森 聡 慶應義塾大学教授

1995 年京都大学法学部国際政治専攻卒業、1997 年京都大学大学院法学研究科修士課程修了。1996～2001 年まで、外務事務官として勤務。在外研修先の米国コロンビア大学ロースクールで修士号を取得。2002 年に東京大学大学院法学政治学研究科に入学し、2007 年に法学博士号を取得。2008 年に法政大学法学部准教授として着任し、2010 年より同教授。サバティカル中にジョージ・ワシントン大学（2013-2015）及びプリンストン大学（2014-2015）で客員研究員を務める。2022 年より現職。近著に『ウクライナ危機以後』（共著、東洋経済新報社、2025 年）等がある。防衛省の新防衛政策懇談会及び宇宙領域アドバイザリーボード委員。National Bureau of Asian Research（NBR）の非常勤フェロー。

◎ ルイス・シモン ブラッセル大学安全保障・外交・戦略研究所(CSDS)所長、エルカノ王立研究所ブラッセル所長

ベルギー・ブリュッセル自由大学（Vrije Universiteit Brussel）安全保障・外交・戦略センター（Centre for Security, Diplomacy and Strategy : CSDS）所長。エルカノ王立研究所（Elcano Royal Institute）ブリュッセル事務所長。米国戦略国際問題研究所（CSIS）シニア・アソシエイト（非常勤）および欧州大学院大学（European University Institute : EUI）ロベール・シューマン高等研究所客員フェローも務める。現在、米中競争とその欧州への影響をテーマとする欧州研究会議（ERC）コンソリデーター・グラント・プロジェクトを主導している。専門分野は、国際安全保障、米国の外交・防衛政策、欧州・大西洋安全保障、アジア安全保障。研究成果は、『Security Studies』、『International Affairs』、

『European Journal of International Relations』、『Review of International Studies』、『Journal of European Public Policy』、『Contemporary Security Policy』、『Survival』、『The Washington Quarterly』、『Geopolitics』などの主要な学術誌に掲載されている。これまでに、コロンビア大学でベルギー研究財団（FWO）博士研究員、ジョンズ・ホプキンス大学客員フェローを歴任。ロンドン大学で博士号（Ph.D.）、パリ政治学院（Sciences Po Paris）で修士号を取得。

◆ セッション3 「経済力と国際秩序を見据えた経済安全保障戦略の再構築」

★ 飯田 香織 日本放送協会（NHK）報道局専任局長

NHK の京都放送局、経済部、ワシントン支局を経て、ロサンゼルス支局長、「おはよう日本」・「ニュースウオッチ9」の編集責任者を歴任。2022年から報道局で、NHK ニュースのデジタル発信のほか、偽・誤情報対策や AI 活用などを担う部署の部長を務める。2024年以降は、主にテック、金融、国際経済の解説を担当する解説副委員長。7月から現職。実業家のイーロン・マスク氏から世界的なアーティストのレディー・ガガ氏まで、国内外の幅広いリーダーらのインタビューを行ってきた。IMF や世界経済フォーラムなどが主催する国際会議でモデレーターとしても多数登壇。

◎ トビアス・ゲルケ 欧州外交関係評議会(ECFR)欧州戦略上級政策フェロー

欧州外交評議会（European Council on Foreign Relations : ECFR）シニア・ポリシー・フェロー。地政学的経済競争（ジオエコノミクス）および経済安全保障政策を専門とし、とりわけ EU・中国・米国の関係を中心に、政府機関および民間企業に対する政策助言を行っている。また、ワシントン D.C. のアメリカ・ドイツ研究所（American German Institute）非常勤フェロー、ブリュッセルのエグmont 王立国際関係研究所（Egmont Royal Institute for International Relations）アソシエイト・フェロー、ヘルシンキの Economic Security Forum 外部専門家も務める。ベルギーのヘント大学において国際政治経済学の博士号（Ph.D.）を取得。

◎ アレクサンダー・グレイ 米外国政策評議会(AFPC)上級研究員、元米 NSC 首席補佐官

国際戦略コンサルティング会社 American Global Strategies LLC 最高経営責任者（CEO）。同社は、元米国国家安全保障担当大統領補佐官ロバート・C・オブライエン氏と共同設立した。防衛、航空宇宙、海洋および先端技術分野を中心に、幅広い戦略的助言を行っている。

直近では、ホワイトハウス国家安全保障会議（NSC）において大統領副補佐官兼国家安全保障担当補佐官首席補佐官（Deputy Assistant to the President and Chief of Staff）を務め、国家安全保障担当補佐官室の運営に加え、NSC の予算、人事および安全保障業務を統括した。

これに先立ち、ホワイトハウス国家経済会議（NEC）では、防衛・製造産業基盤を担当する大統領特別補佐官を務めるとともに、国家安全保障会議（NSC）初代オセアニア・インド太平洋安全保障担当部長（Director for Oceania and Indo-Pacific Security）を歴任した。

これまでに、『The Wall Street Journal』、『Foreign Policy』、『The Washington Times』、『National Review』、『Newsweek』、『The National Interest』、『The Hill』、『Naval War College Review』などの主要メディア・専門誌に寄稿している。

◎ 金 顕哲（キム・ヒョンチュル） ソウル大学教授、元大統領経済補佐官

2002 年 9 月～現在 ソウル大学国際大学院 教授

2022 年 8 月～2024 年 8 月 ソウル大学国際大学院 院長

2019 年 4 月～2022 年 9 月 ソウル大学日本研究所 所長

2017 年 6 月～2019 年 1 月 大韓民国大統領府 経済顧問

1999 年 4 月～2002 年 8 月 筑波大学 助教授

◎ 宗像 直子 東京大学公共政策大学院特任教授、元特許庁長官

東京大学公共政策大学院特任教授。東京大学法学部卒業後、通商産業省（現経済産業省）入省。ハーバード大学経営大学院修了（MBA）。長く通商政策に関わり、日本初の自由貿易協定の交渉立ち上げや環太平洋パートナーシップ協定交渉への日本の参加、インド太平洋地域における経済協力等を推進。貿易経済協力局長、内閣総理大臣秘書官、特許庁長官を歴任。特許庁では、知財訴訟手続の強化、スタートアップ支援、行政へのデザイン導入等に注力。現在の研究関心は、大国間競争と地政学的緊張が高まる時代における、経済安全保障と競争力を支える通商・産業政策の再設計。

7月16日（木）

◆ 特別講演 「今後の日本のあり方」

小林 鷹之 自民党政調会長

1999 年東大法学部卒業後、財務省入省。03 年ハーバード大学院修了。在米日本国大使館書記官を経て、2012 年第 46 回衆議院議員総選挙で初当選。現在 6 期。2016 年防衛大臣政務官、2021 年経済安全保障担当大臣、内閣府特命担当大臣（科学技術政策・宇宙政策）。現在、自由民主党政務調査会長を務める。2024 年、2025 年総裁選に出馬。2025 年 10 月自由民主党政務調査会長。著書「宇宙ビジネス新時代！ 解説『宇宙資源法』」（2022 年）、「世界をリードする国へ」（2024 年）。

◆ セッション 4 「不確実性時代における日本のグランドデザインを目指して」

★ 石井 正文 JIA プラットフォーム・マネージングディレクター、元インドネシア大使、元 NATO 大使

1980 年東京大学法学部卒業後、外務省入省。外務省勤務中は、本省では、外務大臣秘書官、総合外交政策局企画課長、アジア大洋州局南東アジア第二課長、地球規模課題審議官、国際法局長他を歴任。海外では、駐英大使館公使（政務担当）、駐米大使館公使（政務担当）、駐ベルギー国大使兼 NATO 日本政府代表、駐インドネシア大使を歴任。2021 年 1 月退官。2024 年から現職。

◎ 五十嵐 文 読売新聞論説副委員長

日本最大の発行部数を持つ読売新聞で 30 年以上にわたり記者として活動をしている。現在は論説委員会の副委員長として、国際情勢に関する社説を中心に執筆。東京、ワシントン、北京の三大首都で政治の現場取材した経験があり、月刊誌「中央公論」の編集長も務めた。英語のほか、中国語での取材が可能。

◎ レオ・ルイス フィナンシャル・タイムズ(FT)東京支局長

英国『フィナンシャル・タイムズ』東京支局長。2024 年 8 月の市場混乱まではアジア・ビジネス編集長として、受賞歴のあるコラムや特集記事を執筆した。それ以前は同紙東京特派員として、金融市場、投資、銀行業界をはじめ、日本の幅広い産業取材した。日本およびアジアに関する豊富な知見を有し、ジャーナリストとなる前には東洋学を専攻。英国『インディペンデント・オン・サンデー』紙でロンドン勤務を経た後、『タイムズ』紙では北京支局長を 5 年間務め、Xi Jinping 政権の発足期を取材した。

◎ **ラモン・ロペス** 東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)理事会議長、元フィリピン通商相

フィリピン元貿易産業大臣。2016 年 7 月から 2022 年 6 月までドゥテルテ政権下で貿易産業大臣を務め、投資促進、貿易自由化、産業競争力の強化、イノベーション推進などの経済改革を主導した。また、地域的な包括的経済連携（RCEP）協定の最終合意・署名にも重要な役割を果たした。

在任中は、フィリピン投資委員会、フィリピン経済特区庁、国家開発公社（NDC）、輸出開発評議会、フィリピン国際貿易公社などの主要機関の議長を務めるとともに、知的財産庁、技術教育技能開発庁などの関係機関を統括した。

現在は、フィリピン最大の複合企業 SM インベストメンツ（SM Investments Corporation）をはじめ、Monde Nissin Corporation、Pilmico Food and Agribusiness Corporation など複数企業の社外取締役を務めるほか、ASEAN・東アジア経済研究センター（ERIA）理事会議長およびフィリピン代表理事を務めている。また、デジタル化、スタートアップ支援、中小・零細企業（MSME）の育成、フィンテック、電子商取引などの分野でも積極的に活動している。

これまでに、2016 年 Nation Builders Award for Government Service、2017 年 Philippine Innovation Man of the Year Award、2018 年シカトゥナ勲章（Order of Sikatuna、ダトゥ級）、2022 年 Presidential Medal of Merit、Asia CEO Awards 2022 「Lifetime Contributor of the Year Award」など、多数の賞を受賞。

フィリピン大学経済学部卒業（経済学）。米国ウィリアムズ大学において開発経済学修士号を取得。

◎ **梅本 和義** JIIA プラットフォーム・統括マネージングディレクター、元国際交流基金理事長、元内閣官房 TPP 等政府対策本部首席交渉官

1977 年東京大学大学院理学系研究科数学専門課程修了後、外務省入省。外務省北米局長、内閣官房副長官補、駐イタリア特命全権大使、国際貿易・経済担当大使兼内閣官房 TPP 等政府対策本部首席交渉官を経て、2024 年 3 月まで独立行政法人国際交流基金理事長を歴任。2024 年から現職。

◎ 塩崎 彰久 衆議院議員

衆議院議員 自民党国会対策副委員長

自民党デジタル社会推進本部において、web3PT 及び AI の進化と実装に関する PT の事務局長として、NFT、web3、AI ホワイトペーパーを起草。2026 年 4 月には「AI ホワイトペーパー2.0～AI 駆動型国家への構造転換」を取りまとめる。また、党改革実行本部内に設けられたワーキングチームの事務局次長として党ガバナンスコード策定に携わる。また、自民党インテリジェンス戦略本部の事務局長も務めている。元厚生労働大臣政務官。

東京大学法学部卒、スタンフォード大学国際政策修士号、ペンシルベニア大学ウォートン・スクール MBA 取得。

◆ セッション5 「FOIP10 周年：次の10年を構想する」

★ 山田 滝雄 JIIA グローバル・アウトリーチ・センター所長、AZEC 担当大使

山田滝雄（日本国際問題研究所 グローバル・アウトリーチ・センター(CGO)所長）

1983 年京都大学法学部卒業。同年外務省入省。南西アジア課長、アジア大洋州局地域政策課長、ASEAN 政府代表部大使（初代）、国際情報統括官付参事官、総合外交政策局参事官（安全保障政策担当大使）、南部アジア部長、国際協力局長、UNESCO 代表部大使、駐ベトナム大使などを歴任。2025 年 10 月より日本国際問題研究所グローバル・アウトリーチ・センター所長。併せて、AZEC（Asia Zero Emission Community）担当大使を務める。対インド太平洋外交、ODA 政策、安全保障政策、情報分析など、多様な課題に取り組んできた豊かな外交経験を有する。大阪府出身。

◎ マイケル・グリーン シドニー大学米国研究所(USSC)所長

これまでに、戦略国際問題研究所（CSIS）アジア担当上級副所長を務めた。また、現在は休職中であるが、ジョージタウン大学エドモンド・A・ウォルシュ外交大学院において、アジア研究部長ならびに現代日本政治・外交政策講座教授を務めている。2001 年から 2005 年まで、ホワイトハウス国家安全保障会議（NSC）スタッフとして勤務した。

◎ 市川 恵一 国家安全保障局長

昭和 63. 10 外務公務員一種試験合格
 平成元. 3 東京大学法学部卒業
 4 外務省入省
 平成 18. 2 総合外交政策局総務課 首席事務官
 20. 1 総合外交政策局総務課 外交政策調整官
 20. 8 総合外交政策局総務課 主任外交政策調整官
 21. 7 アジア大洋州局 大洋州課長
 22. 7 総合外交政策局 安全保障政策課長
 23. 1 官房長官秘書官
 27. 10 総合外交政策局 総務課長
 30. 1 総合外交政策局 参事官
 30. 7 在アメリカ合衆国日本大使館 公使（政務班）
 令和 2. 7 北米局長
 4. 9 総合外交政策局長
 令和 5. 8 内閣官房副長官補 兼 国家安全保障局次長
 5. 10 退官
 国家安全保障局長 兼 内閣特別顧問

◎ ラジャ・モハン モトワニ・ジャデジャ米国研究所（ジンダル・グローバル大学） 特別

教授、『フォーリン・ポリシー』誌 地政学コラムニスト

インド・ジンダル・グローバル大学モトワニ・ジャデジャ米国研究所特別教授。ニューヨークのアジア・ソサエティ政策研究所（Asia Society Policy Institute）特別非常勤フェローを務める。これまでに、シンガポール国立大学南アジア研究所所長、ジャワハルラール・ネルー大学（ニューデリー）南アジア研究教授、シンガポールの S.ラジャラトナム国際問題研究院（RSIS）教授を歴任した。また、カーネギー・インドニア（ニューデリー）の初代所長を務めたほか、2009 年から 2010 年まで米国議会図書館においてヘンリー・アルフレッド・キッシンジャー国際問題講座教授（Henry Alfred Kissinger Chair in International Affairs）を務めた。さらに、インド国家安全保障諮問委員会委員も歴任している。専門分野は、アジアの地政学、インドの外交・安全保障政策、新興技術のグローバル・ガバナンス。『Foreign Policy』および『The Indian Express』に定期的に寄稿している。最新刊は『India and the Rebalancing of Asia』（2025 年）。

◎ ハッサン・ウィラユダ プラセティア・ムリヤ大学学長、元インドネシア外相インドネシア外相

国際法および国際政治を専門とし、生涯を外交官として歩んできた。インドネシア外務省では、国際機関局長、政治総局長、駐エジプト大使、ジュネーブ国際機関代表部大使

などの要職を歴任した。その後、2001年から2009年まで外務大臣を務め、退任後は大統領顧問を務めた。在任中は、インドネシア国家人権委員会の設立を提唱するとともに、ASEAN 人権機関の創設を推進した。また、ASEAN 共同体の設立に向けた ASEAN の制度改革に重要な役割を果たした。紛争解決の分野では、1993年から1996年にかけてフィリピン南部和平プロセスを仲介し、1996年マニラ和平合意の実現に貢献したほか、1999年から2001年までアチェ和平交渉の首席交渉官を務めた。現在は、インドネシア・ジャカルタのプラセティア・ムリヤ大学学長を務めている。

◆ セッション6 「米国の変貌と国際秩序：世界と日本の選択」

★ 五百旗頭 薫 東京大学教授

東京大学で近現代の日本政治外交史を担当（教授）。幕末から戦後にいたる外交政策と国内政治の関係を主な研究テーマとする。日本語の著書に、『大隈重信と政党政治：複数政党制の起源 明治十四年—大正三年』（東京大学出版会、2004年）、『条約改正史：法権回復への展望とナショナリズム』（有斐閣、2010年）、『「嘘」の政治史：生真面目な社会の不真面目な政治』（中央公論新社、2020年）がある。また、2022年に日本の最近10年の歴史を描いたマンガ『日本の歴史』第16巻（KADOKAWA）を監修した。最近、日本国際問題研究所の支援により、編著書『国家形成の政治外交史：近現代日本の「二つの開国」』（東京大学出版会、2026年）を刊行した。

◎ ビル・エモット 前国際戦略研究所(IISS)理事長、The Economist 元編集長

英国の著述家・コンサルタント。1993年から2006年まで『The Economist』編集長を務めたほか、国際戦略研究所(IISS)理事・理事長(2010～2025年)、英国日本協会(Japan Society of the UK)会長(2018～2024年)を歴任したことで知られる。現在は、戦略インテリジェンス・コンサルティング会社モントローズ・アソシエーツ(Montrose Associates)の地政学担当シニア・アドバイザー、東京大学東京カレッジ潮田フェロー(Ushioda Fellow)、『The Irish Times』社外取締役、ダブリンのチェスター・ビーティー博物館理事を務める。また、『毎日新聞』、『日経ビジネス』、イタリア紙『La Stampa』に定期的に寄稿している。著書は15冊に及び、その多くは日本をテーマとしている。現在はアイルランド・ダブリン在住。

◎ 江藤 名保子 学習院大学教授

学習院大学法学部教授。専門は東アジア国際政治、日中関係。スタンフォード大学国際政治研究科修士課程および慶應義塾大学法学研究科政治学専攻後期博士課程修了。博士（法学）。経済産業省経済安全保障に関する産業・技術基盤強化のための有識者会議、経済産業省産業構造審議会、財務省関税・外為審議会などの委員を兼務。在外研究として北京大学国際関係学院訪問学者、シンガポール国立大学東アジア研究所客員研究員、メルカトル中国研究所（ベルリン）客員上席研究員。

◎ 久保 文明 東京大学名誉教授、前防衛大学校長

東京大学法学部卒業、法学博士。慶應義塾大学法学部・東京大学大学院法学政治学研究科教授、コーネル大学・ジョンズホプキンス大学・ジョージタウン大学客員研究員、パリ政治学院招聘教授、ウッドローウィルソン国際学術センター研究員、アメリカ学会会長、防衛大学校学校長等を歴任。著書に『アメリカ政治史』『フランクリン・D.ローズヴェルト—ニューディールと戦後国際体制の創設者』『アメリカ外交の諸潮流——リベラルから保守まで』『アメリカ大統領の権限とその限界—トランプ大統領はどこまでできるか』など。

◎ ケネス・ワインシュタイン ハドソン研究所ジャパンチェアー、元ハドソン研究所長

ハドソン研究所日本チェア。2022年に故 Shinzo Abe 元首相とともに設立した非政府組織インド太平洋フォーラム（Indo-Pacific Forum: IPF）の最高経営責任者（CEO）も務める。

2005年から2020年までハドソン研究所CEOを務めた。これまでに、米国通商代表部（USTR）貿易政策・交渉諮問委員会を含め、4人の米国大統領の下で連邦政府の各種委員会委員を歴任している。

フランス語とドイツ語に堪能。ハーバード大学で政治学博士号（Ph.D.）、パリ政治学院（Sciences Po）でソビエト研究の高等学位（D.E.A.）、シカゴ大学で人文学の学士号（B.A.）を取得。

2020年3月にはDonald Trump大統領により駐日米国大使に指名され、上院外交委員会で全会一致の承認を得たが、第116議会の閉会に伴い指名は失効した。2025年9月にはCBSニュースのオンブズマンに就任した。現在は、ブランズウィック・グループのシニア・アドバイザーも務める。